校長室雑記

笑ってごらん

第 595 号　H.29.9.13 発行

～今日のことば～
体験済みの未来なんか、ひとつもない。ダメかどうかは、やってみなきゃ分からないのだ。未来を築こうじゃないか。（ﾌｧｯｼｮﾝﾃﾞｻﾞｲﾅｰ：山本寛斎）

◇◆「うわぁ～、こりゃ一体どこが優勝するかわからんな～」、「得点集計が大変かも」･･･9 日（土）14:45 頃の PTA 会長・副会長と私の会話である。　◆この日、澄み渡る秋空の下、第 53 回体育大会を挙行した。大会テーマは**『翔べ！舞え！はばたけ！鳳凰魂』**。高校 1～3 年の各応援席にはハイレベルなデザインの応援パネルが掲げられている。朝から日差しが強く、降り注ぐ紫外線で目が痛い。「生徒が熱中症で倒れなければよいが･･･」。少し不安な思いを抱きつつ体育大会が始まった。事前に各応援団長にお願いしていたことではあるが、開会式終了後すぐにそれぞれの応援団がエールやらかけ声やら動いてくれたので、プログラム開始までの時間も活気が生まれた。その後も随所で応援団の尽力がうかがえたことがとても嬉しく思えた。　◆予行の際は競走種目でほとんど 1 年生が 1 位であったことから総合成績もダントツで 1 年生が優勝した。講評で「2・3 年生は力を出し惜しみしているのかも･･･」と話したが、本当にそうだったようだ。冒頭のように、最後まで優勝がわからない混戦となった今大会。午前中のプログラムを終えた時点で 16 点以内に 1～3 年生 3 チームが並んだ。午後の競技においても 1 位を獲る学年が都度入れ替わる状況が繰り返され、勝敗は「団対抗リレー」の結果にもつれこんだ。得点集計が混乱を極め、閉会式が始まった時点でも終わらない。急遽、閉会式が校歌斉唱でスタートすることになった。そして･･･。結果、2 位に 1 年生と 3 年生が同点 654 点で並び、2 年生が 659 点で優勝！その差 5 点。こんな展開になったことがこれまでにあっただろうか。ものすごい戦いであった。「僕たち 3 年生が応援団の見本にならなければ･･･」と決意を述べ、一所懸命に盛り上げてくれたのを知っていただけに、辛い結果を受けての 3 年生団長の悔し涙にもらい泣きしそうであった。　◇◆応援合戦の直前には本部席・来賓席の後方には昨年にも増してたくさんのギャラリーが立ち並び、ビデオカメラの数も凄まじかった。昨年、本校専門課程応援団（現専門課程 2 年生）が準備・練習の段階から TV 取材され、体育大会特集として放映されたことから反響大きく、応援合戦の時間帯をめがけて来校された方々も多かったようである。今回は各学年演舞の作り込みが素晴らしかった。その中でやはり抜きんでていたのは専門課程。毎年メンバーは総入れ替えになるというのに、年々磨きをかけ完璧に仕上げてくる。20 年以上続く伝統になっている。しかし、今回は強い意気込みが災いしてか専門課程応援団のみが時間オーバーしてしまった。5 分 8 秒･･･。タイムが発表された直後の応援団員の心境は察するに余りある。結果は内容の素晴らしさが勝り、10 点減点されてもなお不動の 1 位であったとのこと。毎日内容の濃い練習を重ねた成果と言える。成績発表時の団長・副団長の涙が印象的であった。おめでとう！

～・

感謝道

◇◆体育大会当日、グラウンドには早朝 7 時頃から生徒のご家族の姿。本校は生徒数も多いため、ほとんどの生徒が入場行進とマスゲームだけの出場であるにも関わらず、中には徹夜でお弁当を準備され 3 時・4 時の頃自宅を出発された方も居られると聴いた。大変有り難い。「こうして楽しみにして来ていただく方々のためにも素晴らしい、思い出深い体育大会にしなければならない」･･･改めてそう思いを強く抱き、打ち合せに臨んだ朝であった。◇◆このように感動的な体育大会になったのも先生方・生徒の協力のおかげである。感動をありがとう！